

『オウムの聖母』と『オウムと女』

— 絵画のタイトルにおける言葉の結びつき —

小田 涼

(関西学院大学)

絵画のタイトルに二つまたは三つ以上の名詞があるとき、それらの名詞の結びつけ方または前置詞や接続詞の選択には、描かれた対象同士の関係が反映されている。例えば、『オウムの聖母』は、前置詞 *à* を用いて *La Madone au perroquet* のように表されるが、『オウムと女』については、前置詞 *à* を用いた *Femme au perroquet* も、前置詞 *avec* を用いた *Femme avec un perroquet* もどちらも可能である。また、『牝鹿を連れたディアナ』は *Diane à la biche* のように前置詞 *à* を用いるが、『レダと白鳥』は *Léda et le Cygne* のように接続詞 *et* を用いる。

本発表では、絵のタイトルにおける前置詞 *à* と *avec*、接続詞 *et* それぞれの語の選択が絵に描かれた対象同士の関係をどのように反映しているのかについて分析する。絵画のタイトル「*X à Y*」における前置詞 *à* は、*La Vierge à l'Enfant* タイプのタイトルでは、*X* と *Y* とを分かちがたく結びつけており、*avec* による置き換えは不可能である。同じく、*La Madone au perroquet* タイプのタイトル「*X à Y*」では、*Y* が *X* にとって象徴的な意味を持つ対象であることがほとんどであり、前置詞 *avec* による置き換えは難しい。一方、*Femme au perroquet* タイプのタイトルでは、「*à Y*」はもっぱら弁別的機能を果たしており、前置詞 *avec* による置き換えが可能であることが多い。前置詞 *à* を用いた「*X à Y*」型のタイトルおよび *avec* を用いた「*X avec Y*」型のタイトルでは、*X* と *Y* のあいだに何らかの従属関係が認められるのに対して、接続詞 *et* を用いた「*X et Y*」型のタイトルでは、*X* と *Y* とは対等な関係にあるものとして表されている。